

## 平成28年度「後期学校アンケート」の結果報告

12月に行いました『よりよい学校をつくるために～みなみアンケート～』調査の結果をお知らせいたします。学校評価の取組は、「子どもの豊かな学びと育ちを実現するために、学校と家庭・地域が双方の信頼関係のもとに情報や課題意識を共有し、改善する」ことを目指しています。今回も「児童」「保護者」「教職員」がそれぞれのことを振り返る自己評価という形で行いました。その結果をもとに現状を把握し、今後の学校の取組に活かしていく視点で分析・考察をしました。今回の結果を踏まえて次年度の取組に活かしていきたいと思います。アンケートにご協力いただきありがとうございました。

### 「みなみアンケート」について 《保護者の回答率約90%》

児童、保護者とも前期と比べ大きく変化した項目はありませんでした。しかし、教職員は、前期と比べ評価した値が下降している項目が増えています。これは、前期の評価をもとに取り組んだことの成果を振りかえったとき、実際の学級や学年や学校としての到達目標点と到達点のギャップからくるものであると考えられます。また、自分自身に対する評価の視点が厳しくなったとも考えられます。前期アンケートの時期は、新学期になりクラスづくりをする上で、ルールや決まり、学級で大切にしたいことなどを重点的に取り組んだと考えられます。それを年間通じて継続して取り組んだり振り返って改善したりしていく必要性があると思われます。課題として今回あがってきた項目について、学校として分析し具体策を考え今後に活かした取組を行っていきます。

### 【アンケート結果】 A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない (%)

	児童	保護者	教職員
確かな学力	学校の授業は、よく分かる。 A : 51.7 B : 42.1 C : 5.5 D : 0.7	子どもは、学校の学習がよく分かっている。 A : 24.8 B : 65.5 C : 9.4 D : 0.3	児童がよく分かるように、めあての提示とまとめ・振り返りを行っている。 A : 27.1 B : 66.1 C : 6.8 D : 0
	自分の力を伸ばそうと努力している。 A : 49.7 B : 40.5 C : 9.1 D : 0.7	子どもが、自分の力を伸ばせるよう励ましている。 A : 21.1 B : 64.8 C : 14 D : 0.1	児童の学力向上のため、進んで校内や校外の研修に参加している。 A : 11.9 B : 57.6 C : 27.1 D : 3.4
	自分で計画を立てて家庭学習（予習・復習・宿題）を行っている。 A : 40.3 B : 42.5 C : 14.6 D : 2.6	子どもに、自分で計画を立てて家庭学習を行うよう働きかけている。 A : 16.6 B : 55.3 C : 25.4 D : 2.7	児童が計画的に家庭学習を進められるよう指導している。 A : 20.3 B : 76.3 C : 3.4 D : 0
	進んで、読書をしている。 A : 52.8 B : 27.4 C : 14.8 D : 5	子どもに、家庭でも読書をするようにすすめている。 A : 21.9 B : 39.3 C : 32.9 D : 5.9	児童に、マイバッグの活用など読書活動の推進に向けて取り組んでいる。 A : 30.6 B : 52.5 C : 16.9 D : 0
	人の話を、最後まで聞いている。 A : 51 B : 39.9 C : 7.6 D : 1.5	子どもに、人の話を最後まで聞くよう働きかけている。 A : 22.2 B : 61.6 C : 15.6 D : 0.6	児童に、話を聞くことの大切さや聞き方について具体的に示して指導している。 A : 39 B : 61 C : 0 D : 0
	授業中、自分の考えを、進んで話せる。 A : 34.4 B : 33.4 C : 28.1 D : 4.1	子どもに、授業中、自分の考えを進んで話せるよう励ましている。 A : 16.7 B : 50.4 C : 30.3 D : 2.6	児童に、自分の考えを話すことの大切さや、ハンドサインを活用した話し方について、具体的に指導している。 A : 30.5 B : 62.7 C : 3.4 D : 3.4
	家庭で、次の日の学習の準備をしている。 A : 71.2 B : 20.9 C : 5.6 D : 2.3	子どもに、次の日の学習の準備をするよう働きかけている。 A : 34.2 B : 48.9 C : 14.3 D : 2.6	児童に、学習の準備をする大切さを指導している。 A : 32.2 B : 61 C : 6.8 D : 0
	学校に来るのが楽しい。 A : 69.9 B : 22.7 C : 4.9 D : 2.5	子どもは、楽しく学校に通っている。 A : 65 B : 32.1 C : 2 D : 0.9	全ての児童が、学校で楽しく過ごせるよう居場所づくりをしている。 A : 35.4 B : 64.6 C : 0 D : 0
豊かな心	進んであいさつをしている。 A : 60.4 B : 31.6 C : 6.6 D : 1.4	子どもに、友達や地域の人に進んで挨拶するよう家庭でも挨拶している。 A : 37 B : 53.5 C : 8.6 D : 0.9	自ら児童に働きかけ、進んで挨拶できるよう、教職員自ら挨拶している。 A : 50.7 B : 46.2 C : 3.1 D : 0
	ていねいな言葉遣いをしている。 A : 37.1 B : 49.6 C : 11.2 D : 2.1	子どもが、丁寧な言葉遣いをするよう家庭でも意識して話している。 A : 20.3 B : 56.3 C : 22 D : 1.4	児童の手本となるような正しく丁寧な言葉遣いや態度をしている。 A : 21.2 B : 63.6 C : 15.2 D : 0
	人を大切にしている。 A : 68.5 B : 28.3 C : 3 D : 0.2	子どもに、人を大切にする気持ちが育つよう家庭でも互いを思いやるようにしている。 A : 33.1 B : 58.9 C : 7.7 D : 0.3	児童に、人を大切にすることはどういうことか場面に応じて具体的に示し、自らも一人の人間として大切にしている。 A : 29.7 B : 67.2 C : 3.1 D : 0

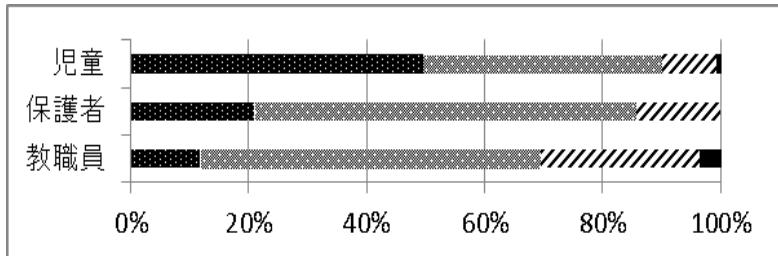
<b>健やかな体</b>	友達と仲良くしている。 A : 83.4 B : 15 C : 1.2 D : 0.4	子どもに、友達と仲良くするよう働きかけている。 A : 44.9 B : 52.1 C : 3 D : 0	児童が仲良く過ごせるよう学級経営や指導を工夫している。 A : 38.4 B : 58.3 C : 3.3 D : 0
	友達のがんばりをみとめ、はげまし、助け合っている。 A : 61.4 B : 34.1 C : 3.7 D : 0.8	子どもに、友達のがんばりを認め、励まし、助け合えるよう働きかけている。 A : 33 B : 56.3 C : 10.3 D : 0.4	児童が互いに認め、励まし、助け合えるよう学級経営や指導を工夫している。 A : 40.3 B : 56.5 C : 3.2 D : 0
	学校やクラスのルール、約束事の大切さを理解し、守っている。 A : 55.6 B : 38.2 C : 5 D : 1.2	子どもに、社会や学校、クラスのルール・約束事を守るよう働きかけている。 A : 41.7 B : 53.6 C : 4.1 D : 0.6	児童に、学校やクラスのルール・約束事の大切さについて指導し、守れるように常に働きかけている。 A : 46.8 B : 50 C : 3.2 D : 0
	学校であったことを、家庭で話している。 A : 54.1 B : 28.6 C : 12.6 D : 4.7	子どもが、学校であったことを家庭で話せる雰囲気づくりを大切にしている。 A : 38.5 B : 53.8 C : 7.6 D : 0.1	児童に寄り添い、困ったことがあれば、何でも相談できる関係をつくっている。 A : 50 B : 50 C : 0 D : 0

【集計結果の考察】  そう思う  だいたいそう思う  あまりそう思わない  そう思わない

### 一確かな学力についてー

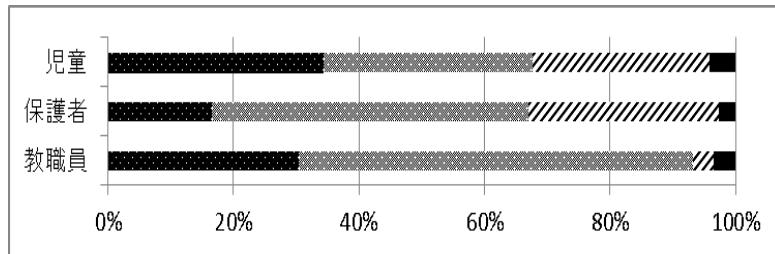
#### ☆自分の力を伸ばそうと努力していること

前期と同じく約90%の児童ができていると感じています。また、約86%の保護者が前期と同様子どもが自分の力を伸ばせるよう声かけをしていただいている。教職員は30%強自ら進んで自己研鑽できなかったと回答しています。限られた時間の中でなかなか校外の研修会に参加することは難しい現状がありますが、校内の研究授業や研修のあり方を見直したり、学んだことを自分の学級経営に取り入れ活用したりする意識改革が必要だと考えています。



#### ☆授業中、自分の考えを進んで話せること

前期と比べてきていないと答える児童の割合が少し増えています。これに対して、児童に自分の考えを話すことの大切さやハンドサインを活用した話し方について具体的に指導している教職員は約93%となっています。一方で、3.4%の教職員ができていないと回答しています。児童においては、学習内容が前期と比べ難しいため自信をもって発表することができなくなってきたいるのかもしれません。しかし、間違っても安心して発表できる環境があれば、もっと自分の考えを話すことができると言えます。引き続き、授業力や指導力同様、児童の居場所作りにも取り組んでいきたいと思います。



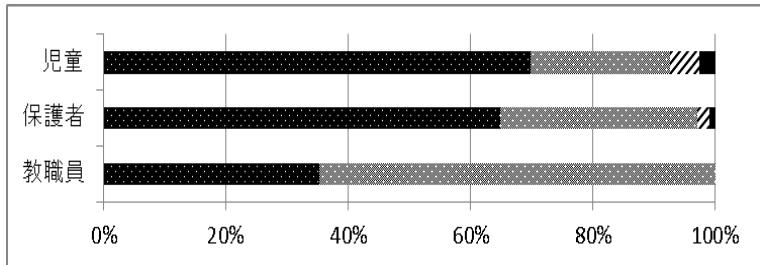
#### 【保護者の声】

「授業で分からぬところを放課後などに教えてもらえないだろうか」というご意見をいただきました。子どもたちの学力定着に高い関心をもってくださっていることがうかがえます。

## 一豊かな心についてー

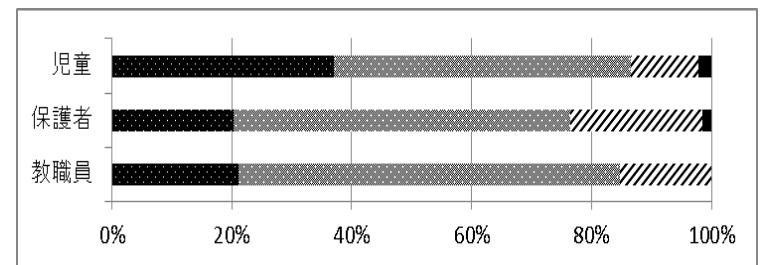
### ☆学校に来るのが楽しいこと

三者とも前期と同じ傾向です。約93%の児童が「楽しく学校に通っている」と答えていますが、約7%の児童が楽しくないと感じています。授業はもちろんのこと、学校行事やその他で成功体験や達成感を味わうことのできる取組を続けてきました。今一度、「居場所」と「要場所」をつくることを教職員全員が意識していきたいと思います。



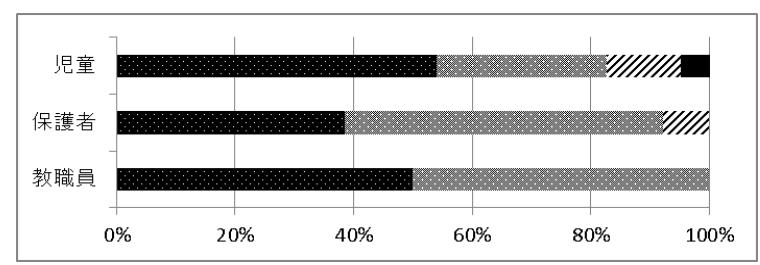
### ☆ていねいな言葉遣いをしていること

前期と比べ児童と保護者は変化が見られませんが、教職員の「児童の手本となるような正しく丁寧な言葉遣いや態度をしている」のあまりそう思わないが3. 6%から15. 2%に上がりました。子どもとの関係が深まる中で、日々の言動への意識が薄れていたことに、この結果から気づかされ、再度全教職員で意識して取り組んで参りたいと思います。子どもの人権意識は、道徳や学習で身に付く以上に、日々の学校・家庭生活の中で培われると思います。なにげない会話や態度が知らず知らずのうちに、子どもに刷り込まれていきます。私たち大人は、そのことを意識して子どもと接することを大切にしていきたいと思います。



### ☆学校であったことを家庭で話していること

前期と同様、大人と子どもの回答には開きがあります。学校でも家庭でもゆっくりゆったりと子どもと向き合う時間の確保が必要なのかもしれません。また、学校であったいやだったことや失敗したことを話すのは子どもにとっても辛いことかもしれません。私たち大人は、子どもの表情や態度でその心の動きを感じ取り、子どもが自ら助けを求めてきたときには、一緒に考え、励ましていける関係を日ごろから築いていく必要があるのではないかでしょうか。



### 【保護者の声】

「挨拶するように子どもに声をかけたり、自分が率先して挨拶をしたりしているが、子どもの心に届いているのか」という声をいただきました。挨拶やルールなどについては、大人が手本となり、指し示していくことが大切です。繰り返し行動していくことで子ども達の心に届くはずです。

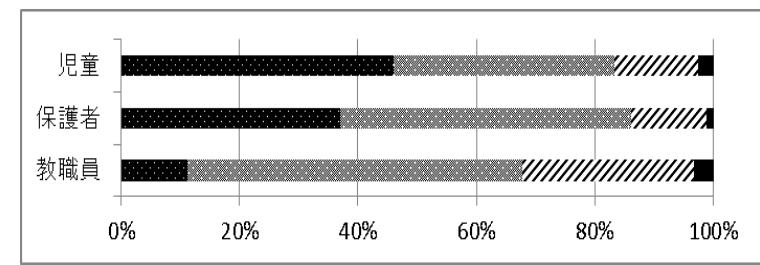
「子どもとどれだけ目を見て会話したかどうかを振り返った」という声もいただきました。子ども達との向き合い方を今一度考えてみるきっかけにこのアンケートを利用していただけると幸いです。

## 一健やかな体ー

### ☆早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身についていること

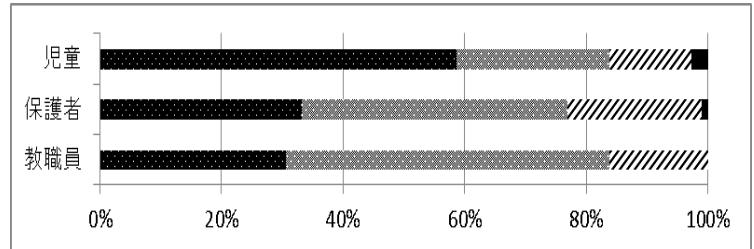
約17%の児童ができていないと回答しています。(前期13%)。原因はどこにあるのか探る必要があると考えます。生活習慣が身についていることと学力は密接な関係があります。生活習慣が乱れることで自律神経の働きも良い状態ではなくなり、体や心の不調を訴えることにもなる傾向にあります。子どものもっている可能性を存分に発揮させるためにも、「早寝・早起き・朝ごはん」を小さいうちから身につけることが大切です。

そして、約30%の教職員が「生活習慣が身につくよう、家庭と連携し働き掛けている」について、できていないと答えています。教職員自身も「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について再認識していかなければと考えます。



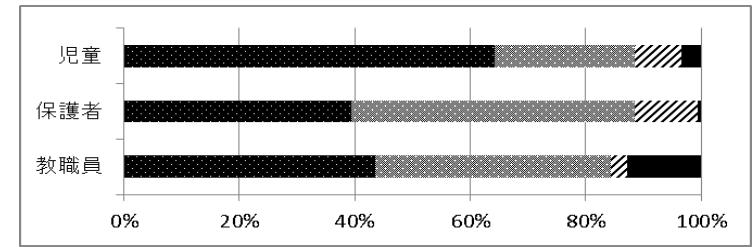
## ☆外遊びなどで、よく体を動かしていること

「ジャンプアップ研究推進事業」を活用しながら、子どもたちに体を動かすことの大切さや楽しさを体感させるようにしています。教職員も子どもと一緒に外遊びをするなどして、より一層取組を推進していきます。



## ☆好ききらいなく、きゅう食を食べている

食事は体づくりの基本になります。子ども達が健康で過ごせるためには不可欠です。給食を残さずに食べている子は増えてきていますが、偏食、食事に時間がかかるという実態があります。学校では、栄養教諭が全学年にテーマを決めて「食に関する指導」を行い、給食指導とあわせて教育に取り組んでいます。偏食や食事にかかる時間については、ご家庭の協力もお願いしたいと思います。



### 【保護者の声】

「習い事もあり、あまり遊ぶ時間がない。もっと外で友達と遊ばせてあげたい。」という声をいただきました。学習だけでなく、お稽古ごとや部活などに忙しい中、時間をうまく使ってしっかりと体を動かし、健康な体を育んでいってほしいと思います。



## 学校評価委員会の皆様のご意見 (紙面の都合上、ご意見の一部でありますことをご了承ください。)

- ・遊びの中で子どもが社会性を学んだり、体感したりするのは良いことです。一方で、習い事や塾通い、また危険だからということで遊具が撤去されるようなニュースを見ていると、体を動かす機会が減るのではないかと危惧しています。
- ・本を読むということが受け身になっているのではないかでしょうか。本の世界は、体験できないことを学べるいい機会です。自分から進んで本を読んでくれるといいなと思います。
- ・アンケートの項目は、目標であると考えるといいのではないかでしょうか。保護者にも自己を振り返ってもらうことも大切です。また、アンケートを行うことで、学校が大切にしていることや取り組んでいることを知ることができます。
- ・アンケートは、日々の生活や取組を振り返るために使うものです。その結果をどのように捉えるか、今後に活かしていくかが大切です。

